



12月10日から12月16日は、 「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

国民的課題である拉致問題の解決をはじめ、北朝鮮当局による人権侵害問題は、国際社会を挙げて取り組むべき課題です。私たち一人ひとりがこの問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。

詳しくは、政府拉致問題対策本部ホームページ「北朝鮮による日本人拉致問題」(<http://www.rachi.go.jp/>) や大阪市ホームページ「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」ページ (<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000414258.html>) をご覧ください。

なお、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」には、様々な取り組みも行いますので、ぜひご参加ください。

【ブルーリボン・ライトアップ】

賛同いただいた施設等をブルーにライトアップします。

〈ライトアップする施設等(予定)〉

大阪府咲洲庁舎、大阪市役所、ドーンセンター、大阪水上バス、湊町リバープレイス、ピースおおさか、とんぼりクルーズ船、府立中之島図書館等

【ブルーリボン・キャンペーン】

コンサート等による啓発イベントを実施します。

日 時：12/10(日) 13:30～14:30

場 所：JR大阪駅5階 時空(とき)の広場

【映画「めぐみ」上映会】

日 時：12/16(土) 14:00～16:00

場 所：ピースおおさか(JR・地下鉄「森之宮」)

定 員：200人【申込先着順】

問合せ：大阪府人権企画課 電話：06-6210-9280

ブルーリボンとは？

ブルーリボンは、拉致被害者の救出を求める運動の中で発案されたものです。ブルーの色は、日本と北朝鮮をへだてる「日本海の青」そして、被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしています。

「北朝鮮による拉致被害者の生存を信じ、絶対に救出する」との意思表示です。誰もが北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示として、青いリボンをつけようという運動がなされています。

「拉致問題を考える国民の集い in 大阪」

北朝鮮による日本人拉致問題の解決に向けて、拉致問題に対してみなさまにより一層の関心を持っていただき、世論の高まりをめざして、拉致問題を考える国民の集いを開催します。

開催日 30年2/17(土) 14:30～16:30(予定)

場 所 KKRホテル大阪(大阪市中央区馬場町2-24)

詳細については、大阪市ホームページ「拉致問題を考える国民の集いin大阪」のページ(<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000414259.html>) をご覧ください。

《問合せ》大阪市市民局ダイバーシティ推進室人権企画課 TEL:06-6208-7619 FAX:06-6202-7073



おおさか歴史探訪 119

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

佃漁民ゆかりの地 — 「佃煮」のルーツは大阪にあり —

佃煮は食卓に彩りを添える惣菜として庶民に親しまれています。この佃煮は江戸時代に現在の東京都中央区の佃島でつくられるようになったものですが、そのルーツは大阪にありました。

大阪市西淀川区佃は神崎川とその分流である左門殿川にはさまれた中洲状の地形にあり、古くより漁村が営まれていました。『撰陽群談』という江戸時代の書物に、浪速で賞味すべきものとして、佃の白魚、イカナゴ、鮒があげられています。

伝承によれば、慶長の頃、徳川家康が多田神社(兵庫県川西市)に参詣のさい、佃村の漁民が漁船で神崎川を渡したことから、恩賞として税金免除などの特権が与えられたといわれています。これが契機となり徳川家と関係ができ、毎年11月から翌年の3月まで佃村漁民が江戸に詰め、江戸城に献魚を行いました。

ただ毎年の江戸への往還は少なからぬ負担がかかるものであったため、寛永7(1630)年、佃村から30数名が江戸鉄砲洲町に移り住み、この地を生国の名前にあやかって佃島と名付けました。この地の白魚は特産として有名で、最初は塩で煮付けたものですが、醤油が手に入りやすくなると醤油煮として、現在見るような佃煮になったといえます。

このように大阪の佃と東京の佃島は地域の歴史と文化を共有する関係にあったことから、大阪市の佃小学校と東京都の中央区立佃島小学校は姉妹校の縁を結び、昭和40(1965)年以来、毎年相互の地域を訪問し交流を続けています。



佃村の産土神である田蓑神社。境内には「佃漁民ゆかりの地」の石碑が立つ。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)